

[第 141 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 5年 8月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 5 年 9 月 16 日 (土) 15時～17 時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.261～(用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

令和 5 年8月6日(日)、安曇川公民館で第 140 回藤樹人間学塾を開きました。今回は京都、大津からの参加者を入れて 8 名でした。

■ テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第五巻 仁虐報の序と第 1 話～第 2 話

■ あらすじ

家の中の召し使っている者に対しては慈悲深く情けがあることを仁という。逆に何事に対してもきつくあたることを虐という。人々には万物一体の心、貴賤一体の心が備わっているものであることを自覚して、慈悲深くすれば仁徳の光が現れるだろう。

■ 配布資料

(1)「まなざし 459 号」、(2)「政をなすに徳をもってするは、……」(致知)、(3)「二程」、(4)「サビは鉄より出でて鉄を腐らせ、グチは人より出でて人を亡ぼす」、(5)「胸の温気、古典の氷解かす」(日経新聞)、(6)「土は以て弘毅ならざるべからず(数士文夫)」(致知)

■ 今日のポイント

- ・ 身分の高い人も低い人も同じ人間だから一体であるという道理を心得ることは難しいが、これを自覚して行動すれば、幸福が訪れる。
- ・ 愚痴は身を滅ぼす。鉄からおこった錆が、それから起こったのに鉄自身を損なうように、悪をなしたならば、自分の業が罪を犯した人を悪いところ(地獄)にみちびく。
- ・ 四書五経のような古典は多くの場合、「氷」の様に使いにくいものである。これを世の中の用に立てるには、胸の中の温気をもってよく解かしてもとの水として用いなければ世の潤いにならない(二宮尊徳)。『鑑草』も藤樹先生が真理を分かり易く教えてくださっている。

■ フリートーク

- ・ 「戦前の教科書には中江藤樹が載っていたと聞いており尊敬すべき人だと思っていた。結婚して高島へ来て、藤樹先生の勉強をしているのはご縁だと思う」
- ・ 「以前、塾で紹介してもらった遠藤周作の『深い河』を読んだ。最晩年の著作でいろいろな人生について深く洞察されており、人生について考えさせられ、とても良かった」→人間は年を取ると、命あることに感謝し時間を大切にしなければならないと気付ける良いことがある。学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。

